

カメラ・光学部品加工中心に事業を展開

ブラザー製設備が82台と圧倒 ほぼすべてにユキワ製ツーリングを装填 ロット数は平均2000個~3000個



ユキワ製ツーリングを手にする高野さん

「加工部品の幅の要求精度の高いものはスーパーG1チャック、挽き目重視はグリーンG1チャック」を活用
オペレーターの高野さん



ツーリングはユキワ製のオンパレードだ



カム溝加工など、複雑形状が増えてきた

「穴あけ加工のみならず、フライス、カム溝加工も増加し、東日本大震災以降に約50台導入」



林社長

「最も留意するのは、顧客への供給能力」
(林社長)

1976年にVTRの品で営業展開していくドラムやカーエアコン部品の加工で創業したハヤシ製作所は、現在、鏡シ製作所は、現在、鏡筒レンズ枠といったカメラ光学部品を中心とした2代目となる林武志社長は「空気圧関連、測量機関連などもあるが、8割方は光学部品が占める。製作した製品は、空気圧関連、社直需材料メーカー社、直需ルートという流れで仕事を請けている。

総数で優に1000本超え。ロット数は、従来は1万オーダーを数えたが、今は多くて5000個平均すると2000個~3000個が多い。機械設備は、110台を数えるが、のうち82台がタッピング能力の高さを評価して導入したブラザー製が82台とメインを占める。互換性、等を取りのスピードが、そのほとんどにユキワ精工のツーリングが装填されている。その総数は優に1000本を超えている」と言うから半端ではない。

「穴あけ加工のみならず、フライス加工やカム加工が増えてくる中で、ブラザー製設備への投資は、特に注力してきた。80台を超えていることは、すでに触れたが、このうち約50台は東日本大震災以降に導入した。半年間で10台設備したこともある」と、顧客に対する供給能力と、顧客への拘りは強い。たとえ6年前に導入したブラザーのマニピュレーター「S500」は、月間稼働時間にして220時間。「動きそのものがスピーディーなうえ、機内の温度変化が少なく、ツールチェンジも速い。」

「だが、ブラザー製設備の長所は、ユキワ精工のツーリングの力がなければ引き出せないのも事実。アルミ中心の非鉄金属における切削加工のスペシャリストの道を今後とも追求していきたい」と林社長は結んだ。

ハヤシ製作所(福島・相馬郡)
ユキワ精工ユーザー訪問

「穴あけ加工のみならず、フライス、カム溝加工も増加し、東日本大震災以降に約50台導入」

高精度ツーリングシステム スーパーG1チャック



精度をとことん
突き詰めると、
コレット式に辿り着く



ユキワだけ精度を 保証！ しています。

YUKIWA ユキワ精工株式会社

スーパーG1チャック 検索
<http://www.yukiwa.co.jp/>



本社・工場 / 〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1 TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所 / 東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.